

今年の春に、明治中学→明治高校→明治大学という既定路線を「途中下車」した2人にインタビュー。頭で考え続ける坂本さんと、とにかく手を動かす藤木さん。明校生として過ごした6年の中で、タイプは正反対ながら刺激を与え合ってきた2人から、やりたいことの選択肢を絞らず、「深化」する姿勢が浮かび上がってきました。

途中下車だって、1つの選択肢。

藤木 優弥さん

Yuya Fujiki

2024年明治高校卒。現在、東京都立大学システムデザイン学部インダストリアルアート学科。明校では、物理部・生徒会本部所属。坂本さん曰く、「絵描き上手なプーさん」。



坂本 幸生喜さん

Koki Sakamoto

2024年明治高校卒。現在、東京工業大学理学院。高Ⅱの7月まで吹奏楽班に所属。藤木さん曰く、「愉快的な頭脳派」。

お二人とも、もともと数学やパソコンが大好きで？

坂 小学生の頃から算数とか数学が好きで。中一の最初の方で高校入試の数学の問題はもう解けたね。高Ⅰの春に、実用数学技能検定の準一級（高三理系修了程度）を取得しました。藤 私 は昔から工作とか絵を描くのが好きで、中学に入ってから物理部でパソコンを使った電子工作や3Dモデリングなどをするようになりました。生徒会本部でポスターなどの印刷物をつくることもしましたね。

はじまりは、小さなワクワクさん。

現在、大学でデザインの勉強をしている藤木さん。幼稚園の頃は、教育テレビ「つくってあそぼ」を見て、ワクワクさんの工作をつくって幼稚園などで披露していたそう。モノをデザインして、評価をもらうということの原点はこの時にあるのかも？

藤 坂本さんの、常に集中して考えるとところは、見習いたいですね。私はむしろ逆なので。

藤 私はまさに電子工作みたいな、仕組みをつくる理工系と、デザイン系の二つに興味があって、理工系の方は、明大でもできるところがいろいろあるんですけど、デザインはなかなかやりづらくて。とはいえ、最初からずっと「受験」を意識していたわけではなく、高Ⅲになったあたりで、やっぱりデザイン分野が楽しいと思って、なら受験するか。あくまで一つの選択肢として、「受験」があった感じでした。

◆「数学の人」と「パソコンの人」

お二人は中高在学中も親交がおありだったそうですが、当初のお互いの印象などは？

藤 中一の時クラスが一緒だったんですけど、最初の出会いはそんなに覚えていなくて（笑）中三の初めくらいから仲良くなって、当時から坂本さんは「数学の人」って感じてました。坂 私 も、最初は覚えていないんですけど、「いつもパソコンで何かつくっている人」ってイメージでした。

◆二つの選択肢としての外部受験

お二人が「外部受験」を意識し始めたのは？

坂 明大の総合数理学部の現象数理学科とかを考えていた時期もありました。学費の問題などもあったんですけど、受験の理由の一つが、東工大のオープンキャンパスに行った時、博士前期課程の方のプレゼンがすごく面白くて、ここに行けば自分みたいな「数学オタク」がたくさんいるんじゃないかと思ったのが始まりです。藤 私はまさに電子工作みたいな、仕組みをつくる理工系と、デザイン系の二つに興味があって、理工系の方は、明大でもできるところがいろいろあるんですけど、デザインはなかなかやりづらくて。とはいえ、最初からずっと「受験」を意識していたわけではなく、高Ⅲになったあたりで、やっぱりデザイン分野が楽しいと思って、なら受験するか。あくまで一つの選択肢として、「受験」があった感じでした。

◆最強の理系に

他大学を受験するというのは苦勞もあったのでは？

坂 数検準一級に合格したあたりから、基礎的な部分には自信が出てきて、だったら「最強の理系になりたい」という思いが強くなりました（笑）そこから、理系科目をコツコツ進めて。いま振り返ると、焦るとかスランプみたいな時期はなかったかもしれないですね。新しいことを少しずつ知っていくのが楽しくて。

藤 坂本さんの、常に集中して考えるとところは、見習いたいですね。私はむしろ逆なので。

オチの過程

Vol.9

2024年10月1日
総明会広報委員会
『M』編集部

明校に新制服！スラックス 導入!!

2024年4月から明校は、女子生徒用の制服にスラックスを導入しました。今までスカートしかなかった女子制服ですが、このスラックスの導入により、寒い日でも快適に過ごしやすい、加えて個性の表現の選択肢も増えました。今回、この案件に携わった「制服検討委員会」の先生方にお話をうかがいました。

（執筆：林田 企画：井畔 取材：林田・三浦）



酒本優希先生 松井萌々子先生 平田裕貴先生 宮下崇先生

「中高六年間で着る制服を作ることにやりがいを感じました」。そう語ってくれたのは、着任して初年度で制服検討委員会に立候補した松井萌々子先生。制服検討委員会は、スラックス導入に際して制服全体を見直すため、職員会議で呼びかけられ、二〇二二年度に結成された。

委員長の宮下崇先生を筆頭に、当時生活指導担当で制服の問題に携わっていた平田裕貴先生、推薦された酒本優希先生が加わり、結果的に明校出身者の四人が集結。「後輩の制服は先輩が考えよう！」（宮下先生）という意気込みのもと、二〇二三年度の正式発表までの約一年間、制服改革にむけた挑戦が始まった。

夏休みの間にカタログや共学化時の資料をそれぞれが読み込み、二期から活動が本格化。スラックス導入は確定事項として、それに伴う制服の全てを再検討した。一〇案ほどあった中には、男女共通で着用可能な「第三の制服」案や、制服廃止案まであったという。その中で、限られた時間や予算の問題を考慮し、スラックス導入のみに焦点が絞られた。

スラックス導入が決まってからも、検討が重ねられる。他校への聞き込み調査もし、現行のブラウスに合わせたときに不釣り合いになってしまった例もふまえて話し合われた。

以前から明大マートにはスラックス導入の問い合わせがあったよう、制服業者にスラックスのデザイン案を求めたところ、すぐ三案ほど既製品を出してもらえたという。

冬のある日、委員会は応接室を貸し切り、スラックスを決めるための試着会が開かれた。ストレータイプの男子用のズボンとは違ったテーパードタイプ。夏・冬用の制服だけではなく、セーターやベストとの組み合わせも考えられる。スラックスは、ネクタイの着用もしくはワイシャツのみが通常の組み合わせなので、それに従ってリボンを着用しなくてもよいのではないかという話も議題に上がった。伸縮性、丈夫かどうかといった「機能性」と、冬に着用した際の「防寒性」を重要視し、結局、ブレザーと同じ素材のデザインに決まった。約二時間、松井先生と酒本先生が試着を繰り返したそう。 「コスプレですよ」と酒本先生は苦笑いしながらも、この日が一番盛り上がったということだった。

その後、校則との整合性が話し合われ、リボン着用が必須であること、スカートとの併用やスラックスのみの購入も可能、といったことが決まった。

スカートの場合、式典などではタイトの着用が認められておらず、防

寒の術がなかった。スラックス導入によりそうした寒さ対策も期待される。夏に着用してもよいが、冬用の素材を使用しているとのこと。新しい取り組みで需要がどれほどあるのかまだわからないため、まずは冬を中心に検討されたそう。

制服検討委員会は今回でいち段落したそうだが、女子生徒の頭髮の問題をはじめ、校則や制服の見直しはたびたび職員会議で話題になる。今回は学校側からの働きかけによりスラックスが導入されたが、過去には生徒会や協議会からの請願によって導入された制服や規定もあるので、「生徒からの自発的な提案がきっかけであってほしい」と平田先生。

スラックスの普及にはもう少し時間がかかりそうな印象ではあるが、新入生の中にはスラックスとスカートを併用する生徒もいる。「先輩」たちが考案した新たな選択肢を、「後輩」たちにはぜひ活用してほしい。



明大 食堂探訪

まずは記者がいただいたメニューの一部をご紹介します! 本食堂は「和食のレシピをふんだんに使用したメニュー構成で「なつかしい味わい」や「母の手料理の味」をコンセプトにご提供します」とのこと(明治大学 HP より)。確かに和食が充実しています。その中で、今回我々が注文したのはこの3つ。

とり天うどん ¥400



優しいおだしの効いた、風味豊かなおつゆが特徴的である。麺もしっかりとコシがあって、とり天との相性は抜群。大学生の胃袋を的確につかんでくる味と食べ応えだ。うどんのメニューは特に幅広く、「カレーうどん」などのメジャーどころはもちろん、「サラダうどん」、「温玉ねばとろうどん」といった変わり種もある。

ランチ B ¥400



白米にお味噌汁と、日替わりのおかずが付くランチ。取材日のおかずは、スパイスの効いたジューシーなタンドリーチキンであった。パプリカが乗っていて色合いもよい。定食というだけあり、栄養価のバランスもよさそう。他の曜日では、チーズハンバーグや豚肉のネギ塩だれ炒めなどが提供されている。

コロッケカレー ¥480



これぞ、大学飯。カレーの盛られたお皿の中央にコロッケがどんと置かれている、編集している今も思い出して再度食べたくなってしまうコロッケカレー。この学食ではカレーにはこだわりがあるのだという。「2種類の炒め玉ねぎを使用」「牛肉からフォンを抽出」、「20種類の香辛料を使用」と、とにかく手の込んだカレーだ。ほくほくのコロッケと非常によく合う。なお、コロッケの代わりにから揚げや温玉などをのせたメニューもある。

「明治中学・高校の中野キャンパス進学者は少ない」明校生であれば、このような言説を耳にしたことがあるのではないだろうか? 実際、本記事の担当者である私の周りの国際日本学部、総合数理学部進学者の合計人数は二〇名を超えませんが……。そんな事情もあってか、ほとんどの明校生にとっては、中野キャンパスは謎に包まれているといえます。今回我々は、昨年度の読者アンケート結果も踏まえ、そんな中野キャンパスの実態に迫るべく、食堂を調査することに。編集部メンバーたちを待ち構えるグルメとは……?

『M』編集部メンバー

- ◇ 林田 こずえ 2011 年卒
 - ◆ 高橋 凌士 2011 年卒
 - ◇ 三浦 直人 2011 年卒
 - ◆ 朝倉 貴紀 2012 年卒
 - ◇ 土屋 弦 2014 年卒
 - ◆ 岩田 澤夏 2015 年卒
 - ◇ 坂本 駿太 2015 年卒
 - ◆ 塩出 研史 2015 年卒
 - ◇ 垣 日菜子 2016 年卒
 - ◆ 高波 茉生 2016 年卒
 - ◇ 井畔 杏里紗 2018 年卒
 - ◆ 橋本 大輝 2018 年卒
 - ◇ 小林 麻衣 2019 年卒
 - ◆ 津島 聖也 2024 年卒
 - ◇ 坂本 幸生喜 2024 年卒
 - ◆ 藤木 優弥 2024 年卒
- アドバイザー
- 石曾根 毅 2015 年卒
 - 山田 豊大 2015 年卒

編集部メンバー募集中!

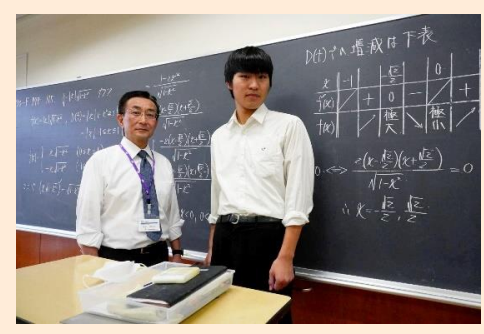
(執筆: 坂本(幸) デザイン: 藤木 取材: 坂本(幸)・林田・井畔)



食堂は広く、テーブル席のほか「スピード席」なる席も存在するようです。食堂内に立つ柱は、料理のカロリーや、バーチャルウォーターを示したイラストが。少し罪悪感(笑) また、限定で「100円食堂」というキャンペーンも行われているみたいです。以上、中野キャンパスの食堂調査でした! いかがだったでしょうか?



関根先生からの宝物!?



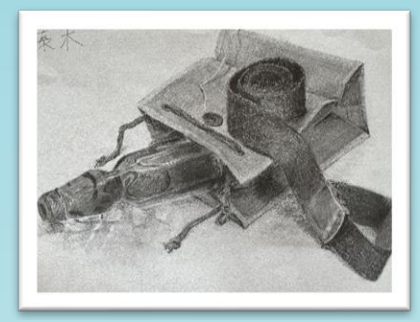
明校の卒業生の知人ぞ知る、関根正人先生の大問8。坂本さんは、高3の数IIIαであの大問8を見事解き切り、その学年初の100点を獲得。その時記念でもらった関根先生の名刺は、今も大切に保管しているんだとか。

◀左: 関根先生 右: 坂本さん

観察眼の藤木



藤木さんは推薦入試で合格したんですけど、出題形式がすごく特殊で、お題についてホワイトボードを使って説明してください。みたいた。あと、結局は受けなかったんですが、実技試験(デッサン)の対策で、小学生の頃



▲藤木さんが描いたデッサン

に通っていた絵画造形教室にまた行くこともしました。サイズ感とか光の反射とか、細かい部分を観察する意識をもつようになりました。

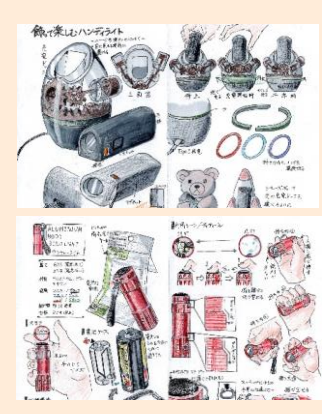
明校に救われた

坂 一般入試だと、共通テストで理系でも社会科学から一つ選択しないといけないんですが、私は迷わず「倫理・政治経済」を選んだんです。それは、明校の倫理の授業で、人間や世界とは

坂 藤木さんは、電子工作にしてもデザインにしても、なんでも興味をもって取り組んでいるんですね。それが幅広い観察力につながっているのかなと。私にはとても真似できないことなので、うらやましく思っています。

藤 大学の講義でよく言われるのが、フィードバックを意識するということ。当然だけど、何かをデザインするときは、使い手や発注者のことを意識する

大学1年生の1コマ



▲藤木さんのアイデアスケッチ ▲坂本さんのノート

それぞれの進学先で、大学生活を謳歌している2人。坂本さんは、基礎科目を学ぶ講義のみならず、自分で数学の専門書を読み込む「1人ゼミ」に勤しんでいるんだとか。藤木さんは、美術部に入り、からくり工作を設計し、実際に組み立てるところまでを計画中。好きなことに向かって挑戦を続ける2人の今後が楽しみだ。

◆深化する二人から明校生へ

大学一年生の今、明校生に伝えたいことは?

坂 私は、受験のために部活を辞めて。多くの方々に迷惑おかけして、今でもお詫びしたいんですが、それがすごく原動力になったんです。だから、「一兔を追って一兔を得よう」というのが自分の中にずっとあるんです。明校生の皆さんも自分の夢に胸張って、一つ一つ着実に進んでほしいというのはありますね。

藤 明校生って漫然と過ごしていると、「いつも通りの生活」で終わってしまいがちだけど、小さなきっかけを見逃さずについてほしいですね。何か発見があったら、一回自分の中に取っておいて、時間があるときに挑戦してみることを意識してもらえれば。中高生のうちにもてる趣味が多いと人生楽しいのかなと思います。



(執筆: 津島 デザイン: 藤木)